

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年5月末現在）

今月の重点活動

■夏秋トマト ミスト防除による省力的防除の実証

トマトの防除作業の省力化を目的として、県農業技術センターが開発した微生物農薬等を細霧ノズルやかん水チューブで散布するミスト防除について、今年度、飛騨地域で現地実証をすることとなった。

今回の実証では、導入コストや防除効果等を勘案し、粒径が細かいかん水チューブ「ミストエース ハウスクール20（住化農材）」を使用し、5月1日、県研究機関と協力して実証ほ場に機器を設置した。

ハウス内の通路の頭上にワイヤーを張り、ハンガーにかん水チューブを取り付け、エンジンポンプで薬液を送る方法である。今回は水を使った試運転を実施し、50mハウス約2.7aを5分程度で問題なく散布できることを確認した。

実際のミスト防除は、トマト定植後の6月～8月まで1週間おきに実施される予定で、農業普及課では、ミスト防除と慣行防除の作業時間や灰色かび病の防除効果等の調査を実施する。今年度は、ハウス1棟のみの実証であるが、規模拡大のための改善や耐用年数等の確認も行っていく。



【ミスト散布確認の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稻 湛水直播栽培の適応性実証を開始

JAひだ、飛騨市、メーカー等をメンバーとするプロジェクトチームでは、今年度、将来の労働力不足を見据え、育苗管理や苗箱運搬等を省力化できる湛水直播栽培の実証を進めている。

5月12日には、多くの生産者、関係者が見守る中、播種が実施され、無事に終了した。後日、苗立ちを確認し、生育も良好なことから、関係者の湛水直播への期待感がうかがわれた。

今後、農業普及課では、プロジェクトメンバーと連携し調査を進め、湛水直播栽培の飛騨地域での実用性等を検証していく。



【播種作業の様子】

【苗立確認の様子】

■果樹 果樹園に害虫発生予察用のトラップを設置

農業普及課が構成員として参画している飛騨地域果樹産地協議会は、令和5年度から「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」に取り組んでいる。本事業では、微気象観測と害虫発生予察を活用し、従来のスケジュール防除から適期防除への転換を目的としており、当課は事業の企画提案やデータ収集・技術検証支援等の役割を担っている。

検証に必要なデータを収集するため、昨年に引き続き管内果樹園3ヶ所に、気象観測装置を設置するとともに、4月22日には害虫発生予察用のフェロモントラップ（対象害虫7種）を設置し、微気象観測と害虫発生予察をそれぞれ開始した。

今年度は3か年計画の最終年であるため、農業普及課では今後、データの収集・分析を行うとともに、適期防除への転換に向けたマニュアルを作成する予定である。



【フェロモントラップ設置の様子】

■春菊 目揃え会が開催される（吉城地域）

飛騨地域では春菊が広く栽培されており、通年出荷が可能なため、安定した単価で取引されている。

5月28日、吉城蔬菜出荷組合春菊部会の目揃え会が開催され、生産者7名が出席した。春菊は今年から飛騨蔬菜出荷組合として、統一の出荷規格となったため、出荷規格の確認が重点的に行われ、生産者は熱心に説明を受けていた。

農業普及課からは、施肥改善について提案を行うとともに、今後の気象条件を加味した病虫害対策について指導を行った。

農業普及課では、今後も栽培支援を継続し、春菊の安定生産を支援していく。



【目揃え会の様子】